

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>基本理念を掲げ、目標に向かって努めている他、「和っふるの夢」という、地域密着型サービスの理念もつくりあげ、全職員が地域との深いつながりを大切にしている。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>一日の始まり、朝の申し送り時に職員で唱和し、理念を共有している。唱和することで初心にかえり気づきある優しいケアに取り組むことができる。</p>	<p>理念の他にも、毎月の目標(短期目標)を掲げ、目的をもったケアの実践に取り組んでいきたい。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>季刊誌「和っふる通信」へ理念の掲載をし、毎戸配布している。身近な公共施設には、通信の拡大版や手作りポスターを掲示し、今年度の盆踊り大会ではグループホーム展を開き、ホームや認知症についての理解を深める活動ができた。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。</p>	<p>日常的に地域の方々と気軽に挨拶を交わし、野菜や漬物などの差し入れがあり、近所付き合いがある。ボランティアの受け入れを積極的に行っており、近辺の幼小中高の学校の他にも、福祉専門学校や福祉体験を希望される方等の受け入れも行い、高齢者や認知症への理解に繋げている。地域のゴミ拾いは春秋と継続しており、地域の方にも良く声を掛けられる。地域全体のイベント活動に「和っふる盆踊り大会」で交流したり、今年度は地域外の依頼にて、認知症介護予防教室を開催し、ホームより職員を派遣して普及に努めた。</p>	<p>そば打ち会でのそば作りや地元の秋祭りでのおみこしかつぎをホームへ立ち寄り見せていただくなど、季節の風物詩となる行事を地域の方の協力にて、行うことができました。ボランティアの皆様方にも「緊張したけど、来てよかった。楽しかった。また来たい。」と言葉をいただきました。ホームとしての地域貢献に活動を広げていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		<p>家族の出席率が低く、参加の呼びかけや時間帯を工夫していきたい。</p>
7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		<p>難しい内容なので、定期的に事例等で復習し、全職員が理解していけるよう、更に勉強していきたい。</p>
9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		<p>特にスピーチロックとされる虐待がおこらないよう、職員同士で声を掛け合っている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
11	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		<p>少しの変化でも、毎日の申し送り時に伝達し、望まれるケアを心がけている。</p>
12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		<p>今後も家族への報告は怠ることなく速やかに行い、信頼関係を継続していきたい。</p>
13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		<p>意見要望ノートを作成し、同じ意見を二度と言わせないような、取り組みを心がけている。</p>
14	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
15	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		<p>緊急時には迅速な対応が出来るよう連絡網があり、ゆとりを持ってケアができるよう、パートの確保もしており、無理のない勤務調整に努めている。</p>

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>スタッフの異動は馴染みの関係を維持するため、必要最小限に抑えている。ホーム内には、全職員の顔写真や名前を紹介し、役割についても開示している。</p>		
5. 人材の育成と支援				
17	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修には、できるだけ参加し、資料や報告書で全職員が共有している。内部での勉強会には、個々の担当事例に基づき、今でのケアに満足することなく、向上心を持って取り組んでいる。</p>		
18	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>毎年交流のあるグループホームと、運動会を行い、入居者や職員同士で楽しんだり、そちらの企画した勉強会へ参加する機会があり、共に学ぶことができた。又、小規模多機能施設と相互訪問をして、地域密着としての活動に対する意見交換を行う事ができた。</p>		
19	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>業務の流れについて随時チェックし、入居者の生活に支障のないように、業務改善し、負担を軽減している。常日頃から、気軽に話せる雰囲気があり、運営者自らが、職員の誕生日にはケーキでお祝いして下さっている。</p>		
20	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営者は職員の個々の得意分野や力量を周知しており、常に励ましの言葉を掛けて下さっている。必要に応じて、相談やアドバイス等がいつでも受けられ、生き生きと働ける職場作りに努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	<p>初期に築く本人、家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入所前に本人や家族と面談をしており、思いや希望を聴くように努め、安心していただけるよう、コミュニケーションを大切にしている。</p>	
22	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>十分な聞き取りと話し合いをし、必要とされる支援が受けられるよう、担当ケアマネや他の関係機関と連携し、必要な対策をとっている。</p>	
23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人や家族には入所前に見学をしていただいたり、家族からのアセスメントをもとに、事前に全職員が情報を共有し、スムーズなケアを行えるようにしている。入所当日は本人の嗜好を取り入れ、「歓迎メニュー」を提供したり、座る位置の工夫や自己紹介が出来る場面作りをしている。</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>得意なこと、不得意なことを見極めて、一緒に食事の準備をしたり、縫い物をしたり、本人の生活に寄り添い、共に暮らし、共に支えあい、感謝の気持ちで接している。</p>	

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族へは面会時や毎月の様子を手紙を通じて、本人の良い場面を伝えたり、又問題点についても家族と相談し、必要な支援が出来るよう協力していただいている。バス遠足や盆踊り大会、もちつき会、本人の誕生日会や行事にて一緒に楽しんだり、家族同志の交流がある。</p>		
26	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>面会時には、本人のこれまでの生活歴をさりげなく聞き出し、日々のケアに活かされている。本人が家族と離れて暮らすことで、寂しがないよう居室へは写真を飾るなど、工夫している。</p>		<p>家族のご厚意により、いちご大福を一緒に作ったり、ハーモニカ演奏、フラメンコを踊って下さるなど、ホームにとっても、信頼に結びついている。</p>
27	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>入居者には、長年の友人や知人の方が訪れたり、又、遠方からもホーム入所を期に訪れるケースが多くあるようになり、良好な関係を継続している。自宅付近へドライブしたり、学校や田んぼ道を散歩し、子どもの頃へ還ったり、働いた場所をなつかしんだり、個々の支援に努めている。</p>		
28	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>入居者の生活歴や性格、認知症の症状に合わせて、座る配置の工夫をし、お互いの関わりがスムーズにいくように支援している。縫い物をしている方のそばで針に糸通しをしてあげていたり、軽作業では聞いたり、教えたりする場面がみられ、職員もさりげないフォローに努めている。</p>		
29	<p>関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>退居後も転居先を訪問し、安心安全で元気に生活されているか確認している。必要に応じていつでも相談にのることをお話している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>		
31	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>		
32	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>		
34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
35	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の行動や生活状況をわかりやすく具体的に個別ファイルへ記入している。本人の率直な会話や言葉を取り入れたりケアの対応を記録し、状態の把握や情報の共有をしている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
36	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>単独事業だからこそ、ニーズに対して柔軟に対応できる長所があり、受診時の移送や買い物への支援の他、家族の要望で夫の最期を看取る為入院先まで送迎したり、葬儀など職員と参列したり、本人や家族へ寄り添った支援をしている。</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	<p>地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>近隣の学校ぐるみでのボランティアや交流会が定着している他、盆踊り大会の協力やそば打ち会の講師は地域の方の協力にて実現している。推進委員には、民生委員や町内会長がなっており、いつでも協力体制がある。</p>		
38	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>日頃より他のケアマネや各機関とも連絡を取り、必要なサービス利用の支援をしている。</p>		
39	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>福祉の制度や総合的なことについては、支援センターの助言を受けられる体制が整っている他、地域で支援の必要な方がいる場合は窓口として、ホームへの問い合わせや相談等がある。</p>		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人のかかりつけ医を尊重し、継続した定期受診をできるように支援している。24時間対応可能な協力医療機関を確保しており、緊急時の診察や相談を受けられる体制がある。</p>		
41	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>入居者によっては専門医の診察を受け適切な治療を受けている方もいるが、専門としない医療機関でもかかりつけ医として、認知症状を診てもらい、治療や対処方法についての相談助言等もいただいている。</p>		
42	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>看護職員2名を配置しており、入居者の健康状態の観察や服薬の注意点など、他の介護職員への指導や相談ができる体制がある。</p>		
43	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院時の治療がスムーズに行われるよう医療機関への情報提供を行っている。入院時は本人の負担にならないよう面会に出向き、回復状況を把握するため家族や医療機関の経過報告を受けて早期退院に向けて整えている。</p>		
44	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>グループホームで「できること、できないこと」をお伝えした上で、入所時にはそうなった場合の本人や家族の意向を確認したり、状態変化や重度化した場合、かかりつけ医の助言を受けながら、家族と話し合い、確認している。</p>		<p>度々ターミナルについてはスタッフ会議でも取り上げたり情報誌などを用いて、話し合いを設けている。今後も終末期のあり方について、話し合いを続けていきたい。</p>
45	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>医療機関による治療方針や家族の関わり方、本人の思いを尊重し、今後の方向性を十分に話し合い、本人にとってより良いケア、グループホームとして、今できる支援に取り組んでいる。</p>		<p>看取りやターミナルケアといった大きな体制はまだ整っていないが、重度化した場合には本人や家族に寄り添い、入院先でも励まし支える支援をしている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>46 住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>家族と十分な話し合いをし、同意を得るとともに、必要に応じて、本人の生活状況や注意点など情報提供を行い、安心した生活が継続されるよう支援している。</p>		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
<p>47 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>触れてほしくない話題は全職員が周知し、個々を尊重した声掛けやさりげないサポートを行っている。</p>		
<p>48 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>日常生活から本人の思いを聞き取るようにしている。一人ひとりに合わせたペースやわかる方言や言葉を用いて、やりたい事、見たいテレビ、食べたい物、行きたい所など、生活の自己決定への声掛けをしている。</p>		
<p>49 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一人ひとりの日常生活のペースや認知の力量に合わせ、居室で過ごされる方、職員のそばで安心して過ごされる方など自分らしく自由に過ごしていただいている。</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>50 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>入浴時には自分で好みの服を選んだり、髪の手入れやお化粧をする方など、おしゃれをする場面を作りだしている。家族と一緒に馴染みの美容院へ出掛けたり、ホームでの出張理髪サービスを利用されたり、又は家族の面会時に居室にてカットをされる方など、本人家族の希望に添うようにしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者 と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と職員が会話をしながら一緒に食事を摂っている。食べこぼしや、介助の必要な方の座席の配置を配慮して、さりげなくサポートしている。料理の下ごしらえ、準備や片付けも入居者より自発的にあり、協働している。		
52 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	誕生日や行事食では、お酒好きな方にはお酒の提供をしたり、好みの食事を聞き出し、喜んでいただけるよう工夫している。買い物支援により、健康に配慮しながら、食べたい物を選び提供できるよう支援している。		
53 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄状況を記入し、習慣やパターンの把握をしている。さりげない声掛けや事前誘導により日中は、ほぼ全員の方が布パンツにパットのみで過ごされるようになり、トイレでの排泄と皮膚疾患の予防にもなっている。		
54 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午後はゆっくり休息したい方が多く、午前の入浴となっている。本人のペースに合わせ、ゆったりとした時間を提供している。時々、好きな音楽をかけてみたり、入浴剤をかえるなど、雰囲気づくりにも配慮している。入浴拒否時や体調不良時は無理の無い柔軟な対応をしている。		
55 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中も居室で休まれる方、こたつで休まれる方と個々に合わせた空間でゆったりと過ごされる時間がある。一人で不安がる方には、以前孫の世話をしていた経歴から、赤ちゃん人形と添い寝をするというアイデアで安心して休めるようになったケースもある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
56 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴をヒントに畑仕事や縫い物、編み物といった持っている能力を引き出し自信をもって頂いている。ひ孫様の為にマフラーを編んでプレゼントした方もいる。日々の生活の中で茶碗拭きやモップ掛けなど役割を持ったり、好きな音楽を観たり聴いたり、本を読んだり、字を書く練習をしたり、といった楽しみがそれぞれある。		


	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>家族と相談の上、本人の力量に合った額を持っていただき、パンやヤクルトの訪問販売を利用したり、買い物等で欲しい物を選ぶ、支払うといった機会を支援している。</p>		
58	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>散歩や買い物も本人の希望に添えるよう、要望があれば、すぐに出掛けたり、計画をたてたりしている。ホームの畑に野菜を取りに行ったり、田植えや稲刈りの時期にはたんぼへ出掛けたり、季節を感じ気分転換を図る機会をつくっている。</p>		
59	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>本好きな方と図書館へ出掛けたり、家族の入院先へスタッフと見舞われたりと、個々の希望を叶えられるよう多機能柔軟な支援をしている。ホームでは家族交流を兼ねて、浅虫水族館へバス遠足をし、家族も一緒に楽しむことができた。</p>		
60	<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>日常的にいつでも家族へ電話をかけられるよう支援している。遠方からも季節の宅配が届いたり、お礼の電話をかけたりと良好な関係を支援している。年1回、本人から、家族や大切な方に年賀状を出す習慣を継続している。</p>		
61	<p>家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している</p>	<p>家族や馴染みの方には、いつでも気軽に来ていただけるよう声掛けしている。来訪時には、記念に写真を撮るようにしており、居室へ飾ることで会話がはずみ、家族への写真のプレゼントが大変好評である。</p>		
(4) 安心と安全を支える支援				
62	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>ケア会議にて、内部研修を行い身体拘束について該当する具体的な行為について、確認し合い拘束しないケアを徹底している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム玄関前は、交通量も多い事から、事故防止としてスイッチで開くようになっている事を家族へ了解得ている。入居者が集まるホールからは、自由に外気浴したり、庭へ洗濯干しに出られるよう施錠せず、常に開放し、自由に入出入りしている。外へ行かれる時はスタッフがさりげなく見守ったり、付き添っている。		
64 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜共に職員は入居者の所在や状況を確認しながら見守っている。居室にて一人で過ごされる時も、プライバシーに配慮し、時には訪室し、声掛け等で安全確認している。		
65 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個人の物品に関しては、本人の力量に応じているが薬や刃物(針、果物ナイフ)等は家族と相談しお預かりし、本人希望時には、いつでも使用できるよう声掛けをしている。ホーム物品でも、刃物や誤飲につながるような物はあらかじめ保管施錠の徹底をしている。		
66 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの状態に合わせ、歩行時の見守りや付き添い、食事中の見守りを行っている。対策マニュアルを作成し、全職員が対応できるよう事故防止に努めている。事故発生時には、報告書を作成し、再発防止に向けた検討会議を行っている。ヒヤリハット報告も活かしている。		年度末には事故報告書やヒヤリハットの事故内容(場所、時間)の集計を行い、事故防止への対策を見直している。
67 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急連絡網での連絡方法の訓練をし、実施している。看護師2名を中心に初期対応や応急手当法について、学ぶ機会を設けている。		
68 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	月1回の避難訓練を実施し、緊急事態に備えて、全職員が様々な想定で取り組み、結果、反省を基に体制づくりをしている。消防訓練では、消防署員や推進委員の立ち会いにて行われ、職員だけでは気づかない問題点についても確認できた。		不安の大きい夜間一人体制時の訓練を更に重ね、身につけていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
70	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>		
71	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>		
72	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>		
73	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>		
74	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対応マニュアルを見える所へ掲示し、除菌、消毒などの予防対策に努めている。うがいや手洗消毒は、職員、入居者ともに徹底している。		
76 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	定期的に調理器具や冷蔵庫の清掃、消毒を行っている。布巾やエプロンは毎食後毎晩消毒を行い、食材も新鮮な食材にこだわって提供し、衛生管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
77 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りには、色とりどりの花や緑が飾るなど、季節感あふれ、気軽に出入り出来るよう表玄関は開放している。手作りの看板は温かみを感じられ、入居者が掃き掃除をして下さり、いつもきれいにしている。		
78 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間にはテレビやソファがあり、家庭と変わらない雰囲気大切にしている。雑誌や新聞を広げて読まれたり、縫い物をされている方など、一人ひとりが安心して過ごせる心地よい場所がそれぞれある。写真は目にとまりやすいように展示し、話題作りとなっている。		
79 共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールへは自然に集まり、お茶をしたり、テレビを見るなど自宅と同じにくつろげるよう工夫している。和室では、入居者同士で洗濯物をたたんだり、こたつでは昼寝でくつろぎ、ゆったりできる工夫をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室前には、それぞれ手作りで工夫された表札があり、居室の間違いないように工夫している。本人が使いやすいように個々の馴染みのものを置いてあり、大切な方の写真に手を合わせお水を供える方や、床に布団を敷いて、ゆったり寝たい方などその人らしい居室となっている。		
81 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	定刻に温度・湿度のチェックをし、入居者に確認しながら、適切な調節をしている。空気清浄機や加湿器の設置をし、換気には十分配慮するなど、快適な生活を送れるよう心がけている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
82 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーで要所に手すりがあり、歩行訓練を行ったり、車椅子も自走できるよう障害物のないよう、安全安心な造りとなっている。椅子やテーブルの高さは、個々にあった工夫をしている。		
83 わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	職員は、個々のわかる力量を活かして、洗濯たたみや、食事の下ごしらえ、盛り付け等、一人で出来そうな事は、さりげなく促し、習慣づけをしている。混乱や失敗時も不安解消できるような優しい声掛けで対応している。		
84 建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	園児や児童との交流の場となり、歌や踊りで楽しまれている。天気の良い日には、庭で食事会やお茶会をしたり、畑に行ったりして、季節を感じられる機会を作っている。ホーム広場でも、犬の予防接種に場所提供したり、入居者に支障のない程度に子犬とのふれあいをさせてもらうなど、地域に開かれたホームをめざしている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

「生きていく元気」をもらうために、自然にふれ、地域にふれる機会をつくり、地域の皆様に理解していただけるよう努力している。そして、地域社会との連携、交流、和を大切にして、今後も気づきあるケアに努めます。